

社 会 科

I 改訂の方針

- 1 各学校における日常実践をもとに、石教研社会（中）部会が積み上げてきた研究実践の成果を十分にふまえ、石狩管内の研究・実践の共通基盤となるように改訂に努める。
- 2 学習指導要領解説の一部改訂を踏まえ、採択教科書との関連を図りながら改訂に努める。
- 3 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を重視する観点や社会参画、さまざまな伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する観点から、各分野の特質に応じて内容の改訂に努める。

II 教科の目標

1 社会科の目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 目標の構造

- (1) 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し
→【中学校社会科の基本的なねらい】
- (2) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い
→【中学校社会科の三分野の学習が目指すねらい】
- (3) 国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う
→【中学校社会科三分野の学習を通して育成する資質】

III 各分野の目標

1 地理的分野

- (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。
- (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわりごととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。
- (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

2 歴史的分野

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。
- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺

産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

- (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。
- (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的な事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

3 公民的分野

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- (4) 現代の社会的な事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

IV 各分野のねらいと内容及び指導上の留意点

1 地理的分野

(1) 世界の様々な地域

ア 世界の地域構成	
ねらい	世界の地域構成を大観させ、地球規模での位置関係をとらえるための基礎的な知識や技能を身に付けさせる
内容	地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。
イ 世界各地の人々の生活と環境	
ねらい	世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。
内容	世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。
ウ 世界の諸地域 a アジア b ヨーロッパ c アフリカ d 北アメリカ e 南アメリカ f オセアニア	
ねらい	世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させる。
内容	世界の諸地域について、上記の a から f の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。
エ 世界の様々な地域の調査	

ねらい	「ア 世界の地域構成」「イ 世界各地の人々の生活と環境」「ウ 世界の諸地域」の各項目の学習で身に付けた知識，概念や技能を活用して，世界の地理学習のまとめとしての調査学習を行い，世界の地理的認識を深めさせるとともに，世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や調べ方，まとめ方などの方法を身に付けさせる。
内容	世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ，様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し，世界の地理的認識を深めさせるとともに，世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

(2) 日本の様々な地域

ア 日本の地域構成	
ねらい	地球儀や地図を活用して，世界的視野から国土の位置や領域の特色を理解したり，他の国との時差を調べたり，都道府県などに着目して様々に地域区分できるとらえたりする学習を通して，国土の地域構成を大まかにとらえさせる。
内容	地球儀や地図を活用し，我が国の国土の位置，世界各地との時差，領域の特色と変化，地域区分などを取り上げ，日本の地域構成を大観させる。
イ 世界と比べた日本の地域的特色 a 自然環境 b 人口 c 資源・エネルギーと産業 d 地域間の結び付き	
ねらい	「(1) 世界の様々な地域」を踏まえ，世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり，日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって，我が国の国土の特色を理解させる。
内容	世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ，我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。 a 世界的視野から日本の地形や気候の特色，海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに，国内の地形や気候の特色，自然災害と防災への努力を取り上げ，日本の自然環境に関する特色を大観させる。 b 世界的視野から日本の人口と人口密度，少子高齢化の課題を理解させるとともに，国内の人口分布，過疎・過密問題を取り上げ，日本の人口に関する特色を大観させる。 c 世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに，国内の産業の動向，環境やエネルギーに関する課題を取り上げ，日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。 d 世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させるとともに，国内の交通・通信網の整備状況を取り上げ，日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる。
ウ 日本の諸地域 a 自然環境を中核とした考察 b 歴史的背景を中核とした考察 c 産業を中核とした考察 d 環境問題や環境保全を中核とした考察 e 人口や都市・村落を中核とした考察 f 生活・文化を中核とした考察 g 他地域との結び付きを中核とした考察	
ねらい	日本を幾つかの地域に区分し，それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して，日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる。

内 容	<p>日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、下記の a から g で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。</p> <p>a 地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。</p> <p>b 地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。</p> <p>c 地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化するものであることなどについて考える。</p> <p>d 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。</p> <p>e 地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、過疎・過密問題の解決が地域の課題となっていることなどについて考える。</p> <p>f 地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。</p> <p>g 地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。</p>
エ 身近な地域の調査	
ねらい	<p>直接経験地域の地理的事象を学習対象として、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。</p>
内 容	<p>身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。</p>

〔指導上の留意点〕

- ① 「(1) 世界の様々な地域」及び「(2) 日本の様々な地域」については、この順序で取り扱う。
- ② 地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導する。その際、教科用図書「地図」を十分に活用する。また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をする。
- ③ 学習で取り上げる地域や国については、各項目間の調整を図り、一部の地域に偏ることのないようにする。
- ④ 地域の特色や変化をとらえるに当たっては、歴史的分野との連携を踏まえ、歴史的背景に留意して地域的特色を追究するよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮する。
- ⑤ 地域的特色を追究する過程で生物や地学的な事象などを取り上げる際には、地域的特色をとらえる上で必要な範囲にとどめる。

2 歴史的分野

(1) 歴史のとらえ方

ア 時代区分と移り変わり	
ねらい	時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。
内容	我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。
イ 身近な地域の歴史を調べる活動	
ねらい	地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。
内容	身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。
ウ 各時代の特色	
ねらい	学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。
内容	学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。

(2) 古代までの日本

ア 世界の古代文明の起こり，日本の国家形成	
ねらい	世界の各地で文明が築かれ，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを，各事項の学習を通して理解させる。
内容	世界の古代文明や宗教のおこり，日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどを通して，世界の各地で文明が築かれ，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。
イ 国家のしくみの整備，天皇・貴族の政治	
ねらい	大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族の政治が展開したことを，各事項の学習を通して理解させる。
内容	律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを通して，大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。
ウ 国際的な要素を持った文化，文化の国風化	
ねらい	国際的な要素をもった文化が栄え，後に文化の国風化が進んだことを，各事項の学習を通して理解させる。
内容	仏教の伝来とその影響，仮名文字の成立などを通して，国際的な要素をもった文化が栄え，後に文化の国風化が進んだことを理解させる。

(3) 中世の日本

ア 武家政治の成立と広まり	
---------------	--

ねらい	武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。
イ 諸産業の発達、都市や農村の自治、文化	
ねらい	武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

(4) 近世の日本

ア ヨーロッパ人來航の背景と影響、織田・豊臣の統一事業	
ねらい	日本の近世社会の基礎がつくられていったことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	戦国の動乱、ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。
イ 江戸幕府の政治の特色	
ねらい	江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
ウ 産業や交通の発達、町人文化の形成	
ねらい	町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。
エ 幕府政治の行き詰まり、新しい学問思想	
ねらい	幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。

(5) 近代の日本と世界

ア 欧米諸国の近代化とアジア進出	
ねらい	欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。
イ 開国と明治維新、近代国家の基礎	

ねらい	新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。
ウ 立憲制国家の成立、国際的地位の向上	
ねらい	立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。
エ 近代産業の発展、近代文化の形成	
ねらい	我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを通して、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。
オ 第一次世界大戦前後の日本と世界	
ねらい	第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。
カ 第二次世界大戦終結までの日本と世界	
ねらい	軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

(6) 現代の日本と世界

ア 第二次世界大戦後の民主化と再建	
ねらい	第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。
イ 高度経済成長以降の日本と世界	
ねらい	我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを、各事項の学習を通して理解させる。
内容	高度経済成長、国際社会とのかかわり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。

[指導上の留意点]

- ①生徒の発達の段階を考慮して、各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成する。
- ②歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図る。
- ③各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる。
- ④歴史的事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮する。
- ⑤国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物に対する生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連付けて考察させるようにする。その際、身近な地域の歴史上の人物を取り上げることに留意する。
- ⑥日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなどして具体的に学ぶことができるようにする。

3 公民的分野

(1) 私たちと現代社会

ア 私たちが生きる現代社会と文化	
ねらい	現代日本の社会にはどのような特色が見られるか、どのような伝統や文化の影響を受けているのかを理解させ、公民的分野の学習に対して生徒の関心を高める。
内容	現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また、現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる。
イ 現代社会をとらえる見方や考え方	
ねらい	現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う。
内容	人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせる。

(2) 私たちと経済

ア 市場の働きと経済	
ねらい	経済活動の意義について消費生活を中心に学ばせながら、なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか、なぜ金融は必要なのか、どうしてそのような仕組みがあるのかということを理解させるとともに、企業にはどのような社会的役割と責任があるのかを考えさせる。
内容	身近な消費社会を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連づけて考えさせる。
イ 国民の生活と政府の役割	

ねらい	国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体はどのような役割を果たしているのかということを理解させるとともに、財政の役割や租税の意義などについて考えさせる。
内容	国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。

(3) 私たちと政治

ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	
ねらい	人間の尊重とはどういうことか、それはどのような方法で実現できるのか、なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのか、などについて理解させるとともに、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。
内容	人間の尊重の考え方を、基本的人権を中心に深めさせ、法の意義を理解させるとともに、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切なことを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義を考えさせる。また、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。
イ 民主政治と政治参加	
ねらい	自治とは何か、議会制民主主義を取り入れているのはなぜか、民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要かについて理解させ、主権者として政治に参加することの意義について考えさせる。
内容	地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させ、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義を考えさせ、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることを理解させ、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる。

(4) 私たちと国際社会の諸課題

ア 世界平和と人類の福祉の増大	
ねらい	世界平和と人類の福祉の増大のために、世界の国々ではどのような協力が行われているか、我が国はどのような協力を行っているかを理解させ、どのようなことができるかなどについて考えさせる。
内容	世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。その際、日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせ、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。
イ よりよい社会を目指して	

ねらい	よりよい社会を築いていくためにはどうしたらよいかについて、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を設けて探求し、自分の考えをまとめさせ、これから社会参画をしていくための手掛かりを得ること。
内容	持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求させ、自分の考えをまとめさせる。

〔指導上の留意点〕

- ①地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された能力や態度が、更に高まり発展するようにすること。また、社会的事象は相互に関連しあっていることに留意し、特定の内容に偏ることなく分野全体として見通しをもったまとまりある学習が展開できるようにする。
- ②生徒が内容の基本的な意味を理解できるように配慮し、日常の社会生活と関連付けながら具体的な事例を通して政治や経済などについて見方や考え方の基礎が養えるようにする。その際、制度や仕組みの意義や働きについて理解を深めさせるようにする。
- ③分野全体を通して、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養う。また、考えさせる場合には、資料を読み取らせ解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりするなどの工夫をする。